登校拒否を考える親の会

越谷で29日に発足

越谷市内の登校拒否の子どもを持つ母親らが、登校拒否を考える会「越谷らるご」（増田良枝代表）を結成、二十九日に発会式を兼ねた記念講演会と交流会を開く。二年前に草加市内にできた「草加らるご」（大塚豊代表）の姉妹団体。越谷地区の問題を考えるために分離を決めた、という。登校拒否を考える市民団体は県内にいくつか組織されているが、同市内で親の会が結成されるのは初めて。

「越谷らるご」のメンバーは、同市千間台で登校拒否児のフリースペース「りんごの木」を運営する親や、「草加らるご」の越谷市内からの参加者ら約二十人。登校拒否児の親同士で話すうちに「自分の子どもだけでなく、どの子どもも傷つく現状がある。個性を尊重した教育に目を向けなければ」などと考えるようになった、という。

越谷市教育委員会の調べでは、九〇年度の市内の長欠児童・生徒は、小学校が六十七人、中学校が百九十八人。市教委は「ここ三年間、横ばい傾向だ」と説明するが、実際には学年が進むに従って増える傾向にある。さらに、小学校低学年から登校拒否が始まるなど、問題の根深さを指摘する声もある。

「子どもも一人の人間なんだという見方が大切。学校教育のあり方を違う方向から見つめたい」と代表の増田さんは話す。登校拒否児とその親だけでなく、子どもに興味ある人すべてと一緒に、子どもが直面している多様な問題を考えていきたい、と幅広い参加を呼び掛けている。

午後一時半～同四時半、越谷コミュニティセンター第二会議室で。講演は「揺れ動く子供の心とのかかわり方」と題して、県立小児医療センターの奥山真紀子医師が話す。同三時から交流会。問い合わせは、代表の増田さん（☎0489・78・2560）へ。